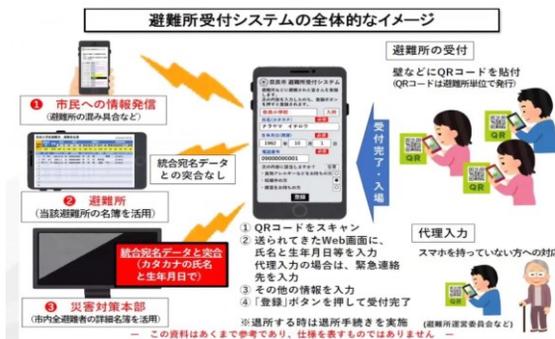


避難所における受付事務処理のDX化を実現！  
奈良県奈良市の事例

災害発生時は、住民への情報提供や、自治体側の避難者情報の把握、資機材の適切な配置が大切です。そこで株式会社内田洋行では奈良市から委託を受け、避難所受付システムを構築しました。個人のスマートフォンで入所や退所手続きが完結する本システムについて、同社自治体ソリューション事業部 西日本営業部 西日本営業課 主任 谷口 憧伍氏に解説していただきました。

point スマートフォンで誰でも簡単に避難所の受付登録が可能に！

内田洋行は、事務機器メーカーというイメージが強いかもしれないが、ICT関連や環境構築関連を柱として事業を展開している。自治体向けには基幹システムや情報システム、ネットワーク、ローコードツールによる支援などを行っている。例えば、奈良市の避難所受付システムなど、自治体からの業務委託でシステム構築を担当。その目的は、災害時の避難所ごとの避難状況を把握し、被災者への迅速な情報提供や、避難状況に合わせた適切な被災者支援につなげることにある。



今回の避難所受付システムの全体イメージとしては、まず受付の壁などに貼ったQRコードを被災者がスマートフォンで読み取って、Web画面から氏名や生年月日などを入力。スマートフォンを持っていない人の場合は、代理入力してもらい、緊急連絡先も記載しておく。その他の入力を行って、登録ボタンを押す。これだけで受付が完了となる。

登録された情報は、システムのデータベースに蓄積され、避難所の混み具合などの情報を市民が見られるようになったり、管理側で該当避難所の名簿などを確認できたり、自治体側で全域の避難者名簿や

各種データを活用したりすることが可能になる。災害対策本部の画面からは、表形式やマップ形式での集計結果、避難者数・避難所数の推移の折れ線グラフ、棒グラフ、統合宛名データと突合した避難者詳細名簿の表示が可能だ。

point 製品・サービスを上手く組み合わせることでシステムをインテグレート

本システムは、一からスクラッチで開発したものでなく、必要な機能を利用するために、5つの製品やサービスを上手く組み合わせることでインテグレートしている。入所退所情報を集約するアプリケーションを作るためにサイボウズの「kintone」を採用しているが、その連携にはトクモの製品・サービスを利用。入所退所入力フォームに「FromBridge」、集計データのグラフ表示に「kViewer」、集計データの出力に「PrintCreator」、kintoneデータのバックアップには「kBackup」を使用。



完成した避難所受付システムは、実際に総合防災訓練にて検証した。50弱の施設で約5300名が参加し、各関係者に利用イメージを浸透させ、数千名規模の利用によるシステムの負荷のかけり具合も検証できた。

また、今回文字やボタンの色使いなど、ユーザーインターフェースの改善点や



谷口 憧伍(たにぐちしようご)氏  
株式会社内田洋行  
自治体ソリューション事業部  
西日本営業部 西日本営業課 主任

2017年に株式会社内田洋行に入社し、地方公共団体のITソリューション担当営業として関東地区のエリアで活動。2020年より関西・北陸地区を中心に内部事務システム、情報ネットワーク構築などのIT事業に従事。奈良市様事業においては、担当営業として顧客調整及びシステム構築支援を実施した。

一部の不具合の課題(QRコード)も見つかっている。

今後はさらに使いやすいシステムを目指して改良を加え、避難所受入れ作業の効率化と、自治体職員や関係者の負荷軽減に貢献していく予定。

問合せ先

一般社団法人SDGsデジタル社会推進機構(ODS)

info@ods.or.jp

※お問い合わせの際には「ウェビナー通信を見た」とお伝えください



株式会社内田洋行  
取り組みページ